

各保健所管内のオンライン診療の現状と 導入可能性について

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【岡山市保健所】

管内におけるオンライン診療の現状

1 医療機関の届出はあるが、診療形態等は把握していない。医療広告情報や医療安全支援電話等でオンライン診療の情報がはいることがあるが、具体的な情報は把握していない状況。

オンライン診療に対する地域のニーズ

現在、特別な要望等は受けていない。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

管轄の北部地域においては、開業医の廃止など診療所の減少がつづいている状況がある。辺縁部は特にオンライン診療受診施設等も含めた医療アクセスのための整備の必要性が高まっていると認識している。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【倉敷市保健所】

管内におけるオンライン診療の現状

令和8年7月1日時点でオンライン診療の実施を把握している医療機関等はない。

オンライン診療に対する地域のニーズ

令和8年7月1日時点で市民等からオンライン診療に関する要望等はいただいていない。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

令和8年7月1日時点で医療資源が不足している地域があると認識していない。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【備前保健所】

管内：4市2町（玉野市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・吉備中央町）

管内におけるオンライン診療の現状

- ・「情報通信機器を用いた診療」の施設基準届出：11機関（中四国厚生局、令和8年6月1日現在）
- ・医療機能情報提供制度（医療情報ネット（ナビイ））に基づく報告状況：6機関
（診療科内訳：内科が3件、皮膚科形成外科1件、婦人科1件）
- ・「オンライン診療受診施設」の管内届出なし（令和8年6月末時点）

オンライン診療に対する地域のニーズ

御要望、御意見は、保健所には入っていない。
地区医師会事務局に確認したが、特に議題に上がったことはないとの回答であった。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

- ・通院手段が不足する地域においては、オンライン診療の導入は、検討すべき課題と考える。
- ・利便性の向上の観点でも、受療行動に影響する可能性があるため、注意が必要である。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【備中保健所】

管内：4市3町（笠岡市・井原市・総社市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）

管内におけるオンライン診療の現状

（医療機関数）

	総社市	早島町	笠岡市	井原市	浅口市	矢掛町	早島町	総計
「情報通信機器を用いた診療」の施設届出基準 （中四国厚生局・R8.6.1現在）	5	1	6	0	1	1	0	14
オンライン診療対応を公表している機関 （医療情報ネット ナビィ）	6	0	5	0	0	0	0	11

オンライン診療に対する地域のニーズ

- ・令和8年7月3日現在、該当する要望等はない。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

- ・現在具体的な相談や要望等はないが、今後住民のニーズはあると予想される。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【備北保健所】

管内：2市（高梁市・新見市）

管内におけるオンライン診療の現状

詳細は把握していない。

オンライン診療に対する地域のニーズ

令和5年度及び令和6年度の「高梁・新見圏域保健医療対策協議会」において、中山間地域の患者に対してオンライン診療で補完できないか提示した経緯があるが、人材や機器（ハード面）通信環境等で課題があり、普及しにくいとの共通認識であった。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

将来的には導入の可能性はあると考えるが、へき地等でオンライン診療を導入するのは課題が多くハードルが高い。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【真庭保健所】

管内におけるオンライン診療の現状

管内：1市1村（真庭市・新庄村）

- ① 中国四国厚生局の届出受理状況（情報通信機器を用いた診療に係る基準。R8年6月1日現在）
28医療機関（病院6、診療所22）のうち3医療機関
（いずれも真庭市内の診療所。標榜診療科は内科、耳鼻咽喉科など）
- ② 患者の利用状況など（医療機関からの主な聴き取り内容）
 - ・ 利用は数名。思ったより利用されていない印象。勧めても対面を希望される患者が多い。
 - ・ 利用者は遠方に限らず近隣の患者（20代から30代が中心）もある。
 - ・ オンライン機器の利用に慣れていたり、対面を求めない患者には受入れやすい様子。
 - ・ 持続陽圧呼吸療法（CPAP）、継続的な処方などでは利用しやすいそう。
 - ・ 特に、お勤めの方は通院・診察の所要時間の点でメリットを感じている様子。

オンライン診療に対する地域のニーズ

- ・ 管内は広域であり、高齢化率が高く、医療資源に限られる中で必要性は高い。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

- ・ 技術的には可能。真庭市では、市内全域で光ファイバーによる高速インターネット網「真庭ひかりネットワーク」を整備。新庄村も同様に「新庄きらりネットワーク」を整備。
- ・ 導入資金、医療側オンライン診療装置の操作人材については不明。
- ・ 医療側・患者側のオンライン診療装置の操作人材の育成は可能。

各保健所管内のオンライン診療の現状と導入可能性【美作保健所】

管内：2市5町1村（津山市・美作市・鏡野町・勝央町・奈義町・西和倉村・久米南町・美咲町）

管内におけるオンライン診療の現状

- ・「情報通信機器を用いた診療」の施設基準届出＝ 12機関（中国四国厚生局、令和8年6月1日現在）
- ・オンライン診療対応を公表している機関＝ 4機関（うち1機関は「休止中」と記載、医療情報ネット（ナビイ））
- ・算定回数：オンライン再診 約100回/年・初診 年10回未満（NDBオープンデータ、令和6年度）
- ・「オンライン診療受診施設」の管内届出なし（令和8年6月末時点）

オンライン診療に対する地域のニーズ

○令和8年3月17日（火）令和7年度津山・英田圏域医療DX推進連絡会議における意見概要

- ・「オンライン診療受診施設」は届出のみで民間企業も設置可能となるため、地域外の事業者の参入を懸念。
- ・住民への普及啓発として、地域でオンライン診療ができる医療機関の周知が必要。
- ・オンライン診療の形態は多彩であるため、具体的な事例の共有など行政のサポートが重要である。
- ・オンライン診療を考える際、診療のことだけを考えるのではなく、服薬（処方箋対応・配送）やフォローアップ、緊急時の対応についても検討が必要である。
- ・医師以外にも、看護師や薬局等の関与が必要である一方、人材不足に懸念がある。
- ・基本的には医療は対面が原則で、責任の所在等を含め慎重に整理すべきとの意見。

医療資源が不足する地域へのオンライン診療の導入可能性

管内には無医地区等のへき地があり、オンライン診療導入の必要性は高いと考える。一方、単なる診療のオンライン化ではなく、服薬・フォローアップ・急変時対応まで含め、地域の医療機関、訪問看護、薬局等が主体的に関与する体制整備が前提であり、県の医療DX推進協議会の議論を踏まえつつ、圏域において必要な検討を進めて参りたい。